

现代日语

新

日语能力考试

指导概要版和试题例集

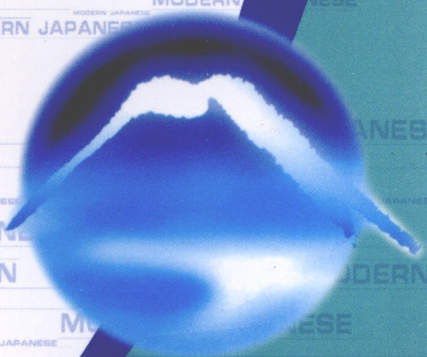
(N4, N5)

日本国际交流基金

日本国际教育支援协会

著 西藤洋一 慧子 编

学林出版社



新日本语能力考试



日语能力考试

指导概要版和试题例集

(N4, N5)

新日本语能力考试
指导概要版和试题例集

日本语能力考试协会

新日本语能力考试

新日本语能力考试

新日本语能力考试



现代日本语

前言

新日语能力考试

指导概要版和试题例集

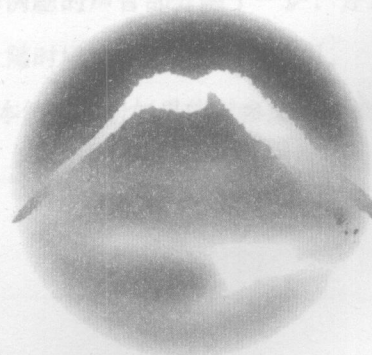
(N4, N5)

日本国际交流基金

著

西藤洋一 慧子 编

日本国际教育支援协会



学林出版社

图书在版编目(CIP)数据

新日语能力考试 指导概要版和试题例集(N4,N5)/日本国际交流基金,日本国际教育支援协会编著. —上海:学林出版社,2010.6
ISBN 978-7-5486-0031-2

I. ①新... II. ①国... ②日... III. ①日语—水平考试—自学参考资料 IV. ①H360.41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 098306 号



新日语能力考试 指导概要版和试题例集(N4,N5)

作 者——日本国际交流基金
日本国际教育支援协会

编 者——西藤洋一 慧 子

责任编辑——薛 仁

特约编辑——陈晶龙

封面设计——周剑峰

出 版——上海世纪出版股份有限公司
学林出版社(上海钦州南路81号3楼)

电话: 64515005 传真: 64515005

发 行——上海世纪出版股份有限公司发行中心
(上海福建中路193号 www.ewen.cc)

印 刷——启东人民印刷有限公司

开 本——787×1092 1/16

印 张——5.5

字 数——10万

版 次——2010年6月第1版
2010年6月第1次印刷

书 号——ISBN 978-7-5486-0031-2/G·11

定 价——17.00元(附赠光盘)

(如发生印刷、装订质量问题,读者可向工厂调换)

前 言

日本国际交流基金会和日本国际教育协会（现日本国际教育支援协会）举办的日语能力考试，是以非日语为母语的人为对象进行日语能力评定的考试。从1984年开始以来，全世界参加考试的人数由当初的7000人左右，至2008年突破了56万人，业已成为世界最大规模的日语考试。

近年来，参加日语能力考试的人呈现多样化趋势，不仅有在大学学习日语的学生，还有在工作中需要日语的社会人员、在日本生活需要日语的移居者及将日语列入教育课程的一部分学校的高中生和初中生等等。同时，考试者参加考试的目的也在变化，除了日语能力与水平的鉴定外，还有为了就职、加薪、晋级等。

在该考试实施以来的20多年间，应用语言学、日语教育学，教育考试理论等均有所发展，并且关于该考试结果的各项数据储备也越来越充分；另外，还产生了很多关于该考试的希望和建议。在这一基础上，日本国际交流基金会和日本国际教育支援协会于2005年举办了“关于日语能力考试改善研讨会”；会后在许多专家的支持与协助下，决定在2010年实施新的日语能力考试。

本书就是为新的日语能力考试而准备的练习题册，它将新的日语能力考试的概要、各级考试例题、听解例题的声音部分融于一炉，并且在日语能力考试网站（<http://www.jlpt.jp/>）上随时增补，供读者合并使用。

新的日语能力考试及这本练习题册如果能对参加考试者和有关人员有所帮助，我们将感到非常荣幸。

编著者

2010年6月

目次

◎新しい「日本語能力試験」の概要 1

1. 新しい「日本語能力試験」について.....	2
2. 改定のポイント.....	2
3. 認定の目安.....	4
4. 試験科目と試験時間.....	5
5. 試験の結果.....	6
6. 問題の構成.....	8
7. よくある質問.....	9

◎試験問題の構成 12

◎問題例 19

■ N4

言語知識（文字・語彙）.....	20
言語知識（文法）・読解.....	25
聴解.....	35

■ N5

言語知識（文字・語彙）.....	41
言語知識（文法）・読解.....	45
聴解.....	57

◎解答用紙（マークシート）

N4.....	65
N5.....	68

◎正解

N4.....	71
N5.....	72

◎聴解スクリプト

N4.....	73
N5.....	76

※注意

1. 試験問題例について

各大問における小問数は、実際に出題される問題数とは異なります。

2. 解答用紙について

解答用紙は実際の形式と異なります。練習用にご利用ください。

新しい「日本語能力試験」の概要

1 新しい「日本語能力試験」について

日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育支援協会が1984年から実施しています。2008年には全世界で約56万人が受験しました。

近年、日本語能力試験の受験者が多岐にわたり、その受験目的も実力の測定に加え、就職・昇給・昇格のためと、変化が見られるようになりました。試験に関する要望や提言も出されました。

そこで、国際交流基金と日本国際教育支援協会では、試験開始から20年以上の間に発展してきた日本語教育学やテスト理論の研究結果とこれまでに蓄積してきた試験結果のデータなどを用いて日本語能力試験の内容を改定し、2010年から新しい日本語能力試験を実施することとしました。

2 改定のポイント

(1) 課題遂行のための言語コミュニケーション能力を測ります

日本語に関する知識とともに、実際に運用できる日本語能力を重視します。

そのため、文字・語彙・文法といった言語知識と、その言語知識を利用してコミュニケーション上の課題を遂行する能力を測ります。

※解答は現行試験と同様に、選択枝によるマークシート方式で行います。なお、話したり書いたりする能力を直接測る試験科目はありません。

(2) レベルを4段階から5段階に増やします

レベルを現行試験の4段階(1級、2級、3級、4級)から5段階(N1、N2、N3、N4、N5)に増やします。

新試験のレベルと現行試験の級の対応は下の通りです。

N1	現行試験の1級よりやや高めのレベルまで測れるようになります。合格ラインは現行試験とほぼ同じです。
N2	現行試験の2級とほぼ同じレベルです。
N3	現行試験の2級と3級の間のレベルです。(新設)
N4	現行試験の3級とほぼ同じレベルです。
N5	現行試験の4級とほぼ同じレベルです。

「N」は「Nihongo(日本語)」、「New(新しい)」を表します。

(3)「得点等化」を行います

異なる時期に実施される試験では出題される問題が異なるので、どんなに慎重に問題を作成しても、毎回の試験の難易度が多少変動してしまいます。そこで、新試験では「等化」という方法を用い、試験の得点が難易度の影響を受けることをなくし、公平性を保ちます。

(4)「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を提供します

各レベルの合格者が、日本語を使用して実際にどのようなことができるかと考えているかを調査した「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を提供します。

この Can-do リストを手がかりに、合格者本人やまわりの人々が、試験の結果をより具体的に理解できるようにすることを目指します。

現在作成中のリストから記述例の一部を紹介します。

■「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)の記述例

聞 く	学校や職場、公共の場所でのアナウンスを聞いて、大まかな内容が理解できる。
話 す	アルバイトや仕事の面接などで、希望や経験を詳しく述べることができる。
読 む	関心のある話題に関する新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。
書 く	感謝や謝罪、感情を伝える手紙やメールが書ける。

※上の記述例に対応するレベルは現在調査中のため示していません。

3

にんてい め やす
認定の目安

各レベルの認定の目安は下のとおりです。認定の目安を「読む」「聞く」という言語行動で表しています。
それぞれのレベルには、これらの言語行動を実現するための言語知識が必要です。

レベル	にんてい め やす 認定の目安
N1	幅広い場面^{はばひろ ばめん}で使われる日本語^{にほんご}を理解^{りかい}することができる 読む ^{はばひろ わだい}幅広い話題^かについて書かれた新聞^{しんぶん}の論説^{ろんせつ}、評論^{ひょうろん}など、論理的^{ろんりてき}にやや複雑^{ふくざつ}な文章^{ぶんしょう}や抽象度^{ちゅうしやうど}の高い文章^{たか ぶんしょう}などを^よ読んで、文章^{ぶんしょう}の構成^{こうせい}や内容^{ないよう}を理解^{りかい}することができる。 ・さまざまな話題^{わだい}の内容^{ないよう}に深み^{ふか}のある読み物^{よみもの}を読んで、話^{はなし}の流れ^{りゅう}や詳細^{しゅうさい}な表現意図^{ひょうげんい}を理解^{りかい}することができる。 聞く ^{はばひろ ばめん}幅広い場面^{しぜん}において自然^{しぜん}なスピードの、まとまりのある会話^{かいわ}やニュース^{こうぎ}、講義^{きぎ}を聞いて、話^{はなし}の流れ^{りゅう}や内容^{ないよう}、登場人物^{とうじやうじんぶつ}の関係^{かんけい}や内容^{ないよう}の論理構成^{ろんりこうせい}などを詳細^{しゅうさい}に理解^{りかい}したり、要旨^{ようし}を把握^{はあく}したりすることができる。
N2	日常的な場面^{にちじやうてき ばめん}で使われる日本語^{にほんご}の理解^{りかい}に加え、より幅広い場面^{くわ ばはん}で使われる日本語^{にほんご}をある程度^{ていど}理解^{りかい}することができる 読む ^{はばひろ わだい}幅広い話題^かについて書かれた新聞^{しんぶん}や雑誌^{ざっし}の記事^{きぎ}・解説^{かいせつ}、平易^{へい}な評論^{ひやうろん}など、論旨^{ろんし}が明快^{めいかい}な文章^{ぶんしょう}を^よ読んで文章^{ぶんしょう}の内容^{ないよう}を理解^{りかい}することができる。 ・一般的な話題^{いっぱんてき わだい}に関する読み物^{かん 読みもの}を読んで、話^{はなし}の流れ^{りゅう}や表現意図^{ひょうげんい}を理解^{りかい}することができる。 聞く ^{にちじやうてき ばめん}日常的な場面^{くわ ばはん}に加えて幅広い場面^{しぜん}で、自然^{しぜん}に近いスピードの、まとまりのある会話^{かいわ}やニュース^{きぎ}を聞いて、話^{はなし}の流れ^{りゅう}や内容^{ないよう}、登場人物^{とうじやうじんぶつ}の関係を理解^{りかい}したり、要旨^{ようし}を把握^{はあく}したりすることができる。
N3	日常的な場面^{にちじやうてき ばめん}で使われる日本語^{にほんご}をある程度^{ていど}理解^{りかい}することができる 読む ^{にちじやうてき わだい}日常的话题^かについて書かれた具体的^{ぐたいてき}な内容^{ないよう}を表す文章^{あらわ ぶんしょう}を、^よ読んで理解^{りかい}することができる。 ・新聞^{しんぶん}の見出し^{みだし}などから情報^{じやうほう}の概要^{がいよう}をつかむことができる。 ・日常的な場面^{にちじやうてき ばめん}で目にする難易度^{なんいど}がやや高い文章^{たか ぶんしょう}は、言い換え表現^{いひかへひょうげん}が与えられれば、要旨^{ようし}を理解^{りかい}することができる。 聞く ^{にちじやうてき ばめん}日常的な場面^{くわ ばはん}で、やや自然^{しぜん}に近いスピードのまとまりのある会話^{かいわ}を聞いて、話^{はなし}の具体的^{ぐたいてき}な内容^{ないよう}を登場人物^{とうじやうじんぶつ}の関係^{かんけい}などとあわせてほぼ理解^{りかい}できる。
N4	基本的な日本語^{きほんてき にほんご}を理解^{りかい}することができる 読む ^{きほんてき かい}基本的な語彙^{ごい}や漢字^{かんじ}を使って書かれた日常生活^{にちじやうせいかつ}の中でも身近な話題^{みぢか わだい}の文章^{ぶんしょう}を、^よ読んで理解^{りかい}することができる。 聞く ^{にちじやうてき ばめん}日常的な場面^{くわ ばはん}で、ややゆっくりと話^{はなし}される会話^{かいわ}であれば、内容^{ないよう}がほぼ理解^{りかい}できる。
N5	基本的な日本語^{きほんてき にほんご}をある程度^{ていど}理解^{りかい}することができる 読む ^{にちじやうせいかつ}ひらがなやカタカナ、日常生活^{にちじやうせいかつ}で用いられる基本的な漢字^{きほんてき かんじ}で書かれた定型的な語句^{ていけいてき ごく ぶん}や文^{ぶん}、文章^{ぶんしょう}を^よ読んで理解^{りかい}することができる。 聞く ^{きやうしつ}教室^みや、身の回り^{まわ}など、日常生活^{にちじやうせいかつ}の中でもよく出会う場面^{なか}で、ゆっくり話^{はなし}される短い会話^{みじか かいわ}であれば、必要^{ひつよう}な情報^{じやうほう}を聞き取る^きことができる。

4 試験科目と試験時間

各レベルの試験科目と試験時間は下の通りです。

レベル	試験科目 (試験時間)		
N1	言語知識(文字・語彙・文法)・読解 (110分)		聴解 (60分)
N2	言語知識(文字・語彙・文法)・読解 (105分)		聴解 (50分)
N3	言語知識(文字・語彙) (30分)	言語知識(文法)・読解 (70分)	聴解 (40分)
N4	言語知識(文字・語彙) (30分)	言語知識(文法)・読解 (60分)	聴解 (35分)
N5	言語知識(文字・語彙) (25分)	言語知識(文法)・読解 (50分)	聴解 (30分)

※試験時間は変更される場合があります。また「聴解」は、試験問題の録音の長さによって試験時間が多少変わります。

N1とN2の試験科目は「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」と「聴解」の2科目です。

N3、N4、N5の試験科目は「言語知識(文字・語彙)」「言語知識(文法)・読解」「聴解」の3科目です。

5

し けん けつ か
試験の結果

(1) し けん けつ か ひょう じ
試験結果の表示

かく とくてん く ぶん とくてん はん い した とお
各レベルの得点区分と得点の範囲は下の通りです。

レベル	とくてん く ぶん 得点区分	とくてん はん い 得点の範囲
N1	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識 (文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	ど っ か い 読解	0 ～ 60
	ち ょ う か い 聴解	0 ～ 60
	そう ご う と くてん 総合得点	0 ～ 180
N2	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識 (文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	ど っ か い 読解	0 ～ 60
	ち ょ う か い 聴解	0 ～ 60
	そう ご う と くてん 総合得点	0 ～ 180
N3	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識 (文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	ど っ か い 読解	0 ～ 60
	ち ょ う か い 聴解	0 ～ 60
	そう ご う と くてん 総合得点	0 ～ 180
N4	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文字・語彙・文法)・読解	0 ～ 120
	ち ょ う か い 聴解	0 ～ 60
	そう ご う と くてん 総合得点	0 ～ 180
N5	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文字・語彙・文法)・読解	0 ～ 120
	ち ょ う か い 聴解	0 ～ 60
	そう ご う と くてん 総合得点	0 ～ 180

N1、N2、N3の得点区分は「言語知識 (文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の3区分です。

N4、N5の得点区分は「言語知識 (文字・語彙・文法)・読解」と「聴解」の2区分です。

(2) 合否の判定

総合得点と、各得点区分の基準点の二つで合否判定を行います。基準点とは、各得点区分で少なくともこれ以上が必要という得点です。得点区分の得点が一つでも基準点に達していない場合は、総合得点がどんなに高くても不合格になります。各得点区分に基準点を設けるのは、学習者の日本語能力を総合的に評価するためです。

総合得点と各得点区分の基準点による合否判定の詳細は2010年に決定します。

(3) 試験結果の通知

下の例のように、①「得点区分別得点」と得点区分別の得点を合計した②「総合得点」、今後の日本語学習のための③「参考情報」を通知します。③「参考情報」は合否判定の対象ではありません。

■ 例 N3を受験したYさんの「合否結果通知書」の一部
(実際の書式は変更される場合があります)

①	得点区分別得点			②
	言語知識 (文字・語彙・文法)	読解	聴解	
	50 / 60	30 / 60	40 / 60	
				総合得点
				120 / 180

③	参考情報*	
	文字・語彙	文法
	A	C

A	よくできた (正答率67%以上)
B	できた (正答率34%以上67%未満)
C	あまりできなかった (正答率34%未満)

*「言語知識(文字・語彙・文法)」について、参考情報を見ると「文字・語彙」はA(正答率67%以上)で「よくできた」こと、「文法」はC(正答率34%未満)で「あまりできなかった」ことがわかります。

6

問題の構成

各レベルで出題する問題の構成と問題数は下の通りです。

それぞれの問題の形式や内容については25ページ以降の問題例をご覧ください。

しけん かく 試験科目		たいもん 大問	もんだいすう 問題数				
			N 1	N 2	N 3	N 4	N 5
げんご ちしき 言語知識 ・ どっかい 読解	もじ 文字 ・ ご 語彙	かんじよ 漢字読み	6	5	8	9	12
		ひょうき 表記	—	5	6	6	8
		ごけいせい 語形成	—	5	—	—	—
		ぶんかやくてい 文脈規定	7	7	11	10	10
		いひかへるいぎ 言い換え類義	6	5	5	5	5
		ようほう 用法	6	5	5	5	—
	もんだいすうごうけい 問題数合計		25	32	35	35	35
	ぶんぽう 文法	ぶんぶんぽう ぶんぽうけいしき ほんだん 文の文法1(文法形式の判断)	10	12	13	15	16
		がん ぶんぽう ぶんくた 文の文法2(文の組み立て)	5	5	5	5	5
		がんしりょう ぶんぽう 文章の文法	5	5	5	5	5
	もんだいすうごうけい 問題数合計		20	22	23	25	26
	どっかい 読解*	ないようりかい たんぶん 内容理解(短文)	4	5	4	4	3
		ないようりかい ちゅうぶん 内容理解(中文)	9	9	6	4	2
		ないようりかい ちゅうぶん 内容理解(長文)	4	—	4	—	—
		どうごうりかい 統合理解	3	2	—	—	—
		しゅちゅうりかい ちゅうぶん 主張理解(長文)	4	3	—	—	—
		じょうほうけんさく 情報検索	2	2	2	2	1
	もんだいすうごうけい 問題数合計		26	21	16	10	6
ちゅうかい 聴解	くだいりかい 課題理解	6	5	6	8	7	
	ぽいんとりかい ポイント理解	7	6	6	7	6	
	がいようりかい 概要理解	6	5	3	—	—	
	はつわひやうげん 発話表現	—	—	4	5	5	
	そくじおうどう 即時応答	14	12	9	8	6	
	どうごうりかい 統合理解	4	4	—	—	—	
もんだいすうごうけい 問題数合計		37	32	28	28	24	

*問題数は毎回の試験で出題される目安で、実際の試験での出題数は多少異なることがあります。また、問題数は変更される場合があります。

*「読解」では、一つのテキスト(本文)に対して、複数の問題がある場合もあります。

7 よくある質問

◆ 新試験について

Q1 新試験は年に何回実施されますか。

A1 7月と12月の2回です。ただし、海外では7月の試験を実施しない国・地域があります。
詳しくは、国際交流基金のホームページ〈<http://www.jipt.jp/>〉に掲載します。

Q2 新試験の日は決まっていますか。

A2 7月と12月の初旬の日曜日に行います。

Q3 新試験はどこで受けられますか。

A3 日本で受験する人は日本国際教育支援協会のホームページ〈<http://www.jees.or.jp/jpt/>〉
を見てください。海外で受験する人は、国際交流基金のホームページ〈<http://www.jipt.jp/>〉の「お知らせ」⇒「海外の実施機関」⇒「リスト」から試験を実施している都市を調
べることができます。また、台湾で受験する人は財団法人交流協会のホームページ
〈<http://www.koryu.or.jp/>〉を見てください。

◆ 試験問題について

Q4 新試験では、現行試験のように前年に実施した試験の問題集が出版されますか。

A4 いいえ。前年に実施した試験の問題をすべて掲載した問題集は出版しません。
この問題例集は、実際に出題する試験問題と同形式の問題で構成していますので、練習
問題として活用してください。また、2012年には、2010年と2011年に
出題した問題の一部をこの問題例集に加えて、試験1回分の問題数に相当する形で新たに問題例集と
して発行します。その後は一定期間ごとに、実際に
出題した試験問題を使って問題集を発行していく予定です。

Q5 N1とN2の試験科目「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」が、N3、N4、N5で「言語知識(文字・語彙)」と「言語知識(文法)・読解」の二つに分かれているのはなぜですか。

A5 N3、N4、N5では、試験に出題できる語彙や文法の項目が少ないため、N1とN2のように「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」の一つの試験科目にまとめると、いくつかの問題がほかの問題のヒントになることがあるためです。

Q6 新試験では、日本に関する文化的な知識が必要な問題が出題されますか。

A6 日本に関する文化的な知識そのものを問う問題はありません。文化的な内容が問題に含まれる場合もありますが、その知識がなければ解答できないような問題は出題しません。

◆ 語彙や漢字、文法項目のリストについて

Q7 新試験では、現行試験のような『出題基準』は出版されますか。

A7 いいえ。語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』は新試験では出版しません。

Q8 『出題基準』を出版しないのは、どうしてですか。

A8 日本語学習の最終目標は、語彙や漢字、文法項目の暗記ではなく、それらをコミュニケーションの手段として実際に利用できるようになることだと考えます。新試験では「文字・語彙・文法」といった言語知識とともに、「その言語知識を利用して、コミュニケーション上の課題を遂行する能力」を測ります。したがって、語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』の出版は必ずしも適切ではないと判断しました。

Q9 新試験を受験する人を教えるために、『出題基準』に代わる情報はありますか。

A9 各レベルの認定の目安(10ページ)、試験問題の構成(18ページ)、問題例(25ページ以降)があります。また、新試験のレベルは現行試験の級と対応していますので(8ページ)、現行試験の問題や『出題基準』も手がかりになります。